

令和6年度豆類振興事業（試験研究助成費）の成果概要

② 課 題：インゲンマメモザイクウイルス高度抵抗性を持つ大納言小豆の育種母本の作出（6～8年度）

代表者：京都府農林水産技術センター生物資源研究センター
主任研究員 鴨志田徹也

目 的

インゲンマメモザイクウイルス（以下、BCMV）Aタイプ及びA2タイプに抵抗性を持ち、機械収穫適性の高い品種の特性を受け継ぐ育種母本を作出し、品種育成の足掛かりとする。併せて、府内におけるBCMVのタイプ別分布を調査し、将来のリスクを探る。

成 果

①小豆遺伝資源の交配

・機械収穫適性の高い品種候補「502-9」及び「665」（BCMV-Aタイプ抵抗性あり）とBCMV-A2タイプ抵抗性系統「GB11」を正逆交配し、F₁及びF₂世代の種子を得た。

②BCMV各タイプの分布状況の確認

・府中部の南丹地域のほ場でBCMV感染の疑われる小豆から葉サンプルを採取し、ELISA検定を行った結果、3ほ場の計28サンプルでBCMVの感染が確認された。これらの28サンプル（BCMV28株）の汁液を小豆品種「京都大納言」及び「新京都大納言」に接種し、病徴を観察した結果、21株はAタイプ、6株はA2タイプ、1株はBタイプであると考えられた（表1）。

・BCMV各タイプの構成比率について、今年度の調査結果ではAタイプが優占しており、平成24年の調査結果と同様の傾向を示した（表1）。

表1 京都府南丹地域で採取したBCMV各タイプの株数及び割合

サンプル 採取年	調査株数	Aタイプ		A2タイプ		Bタイプ	
		株数	割合(%)	株数	割合(%)	株数	割合(%)
R6年	28	21	75.0	6	21.4	1	3.6
H24年*	61	39	63.9	12	19.7	10	16.4

BCMV各タイプの接種で観察された小豆の病徴：Aタイプ 「京都大納言」モザイク症状、「新京都大納言」無病徴

A2タイプ 「京都大納言」モザイク症状、「新京都大納言」えそ症状

Bタイプ 「京都大納言」、「新京都大納言」とともにモザイク症状

*静岡(未発表)をもとに作成